

- 市立病院の責務として、神奈川モデルにおける役割を果たすとともに、市民に必要な医療をしっかりと提供していく。
- 早期の患者数の回復、経営状況の回復に全力を挙げる。

1 新型コロナへの対応の現状

(1) ダイヤモンド・プリンセス号への対応 (2~3月)

・市立3病院で陽性患者の受入れ(計20人)・川崎病院からDMAT派遣

(2) 市中感染患者への対応 (3月~)

① 神奈川モデルにおける役割 (6月10日時点)

川崎病院…高度医療機関(13床)及び重点医療機関(19床)

井田病院及び多摩病院…重点医療機関(井田:40床、多摩:30床)

② 受入体制の整備

・既存病棟の活用によるコロナ専用病棟の整備

(川崎病院では救急病棟、井田病院では結核病棟をコロナ専用に変換)

・一部病棟休床による医療スタッフの応援体制の確保 など

③ 受入状況【右表】

受入状況	川崎病院	井田病院	多摩病院
陽性患者	81(重症16)人	72(重症6)人	53人
疑似症患者	70人	146人	192人

【川崎・井田は8/21現在
多摩は8/27現在】

④ 感染予防措置

・不急な手術の延期、検診事業の休止、ゲートコントロール、電話診療、面会禁止等
・コンテナ・テント等による発熱外来の設置

(3) 緊急事態宣言解除後の対応 (5月下旬~)

・感染の第2波に備えつつ、段階的に通常体制に移行

・感染拡大の状況に合わせて柔軟に対応できる受入体制を維持

2 病院運営・経営への影響

(1) 診療稼働額(入院・外来)の大幅減

市立3病院で、5月だけで約**7.4億円**の減、2~7月で約**21億円**の減(対前年同期比)
(直営2病院で、5月だけで約**4.9億円**の減、2~7月で約**14億円**の減)

【主な要因】

① 入院患者数の減

- ・一部病棟の休床 ・外来患者数の減
- ・手術の延期等による手術件数の減
- ・コロナ対応への医療資源集中(人員・病床等)による救急受入件数の減

② 外来患者数の減

- ・患者の受診控え ・紹介患者数の減少

(2) 不透明な要因

① 受診動向

・新たな生活様式の定着や意識の変化による受診減

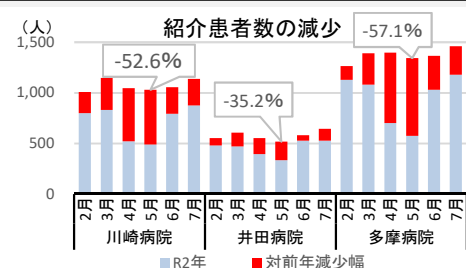
(例)不要不急の受診抑制、マスク着用・手洗い励行など感染症予防定着、健康意識の高まり等
・コロナ受入病院の受診回避・敬遠 (例) 紹介患者の減少等

② 新型コロナウイルス第2波、第3波の到来

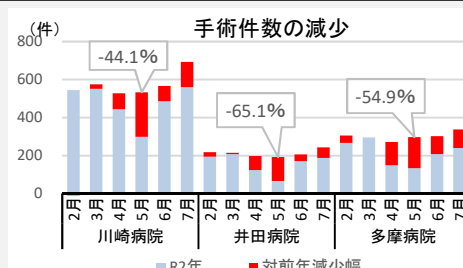
⇒ 患者数の回復は容易ではない!

日本病院会等による病院経営状況調査結果

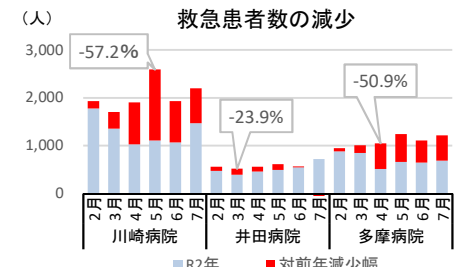
4~6月の前年比	コロナ受入なし	コロナ受入あり	病棟閉鎖あり	川崎病院	井田病院	多摩病院
手術件数		-18.5%		-24.7%	-39.5%	-43.7%
救急患者		-30.4%		-50.1%	-13.4%	-46.4%
救急搬送		-18.0%		-8.3%	-22.5%	-41.3%
入院収益	-5.0%	-11.7%	-16.3%	-18.7%	-22.0%	-22.0%
外来収益	-9.0%	-8.7%	-11.1%	-15.6%	-4.4%	-23.1%
入外合計	-6.1%	-10.8%	-14.6%	-17.7%	-16.0%	-22.4%



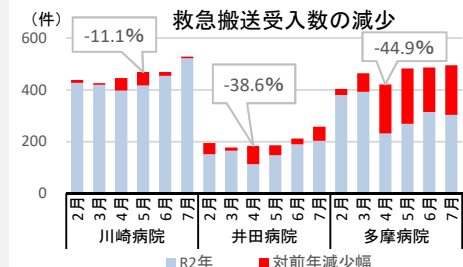
要因: 開業医による患者心理への配慮など紹介控え



要因: 不急な手術の延期等



要因: 患者の受診控えにより主に自力での救急受診が減少



要因: コロナへの医療資源の集中による救急応需率の低下

